

コスモス 10月号

第68巻 第10号

◆宮柁ニカレンダー(19) 十月の歌

オホーツクの潮とどろく草丘にすがれんとし
て赤き玫瑰

歌集『多く夜の歌』

「北涯草丘」七首中の一首目。昭和三十四年十月、北海道網走市とその東にまたがる濤沸湖の地域を訪ねた。まさに北の涯でのオホーツク海と時季の終わりがけのハマナスの実の赤さ。それらをひとつの画面に対照的に嵌め込んだ構図が厳粛である。生命力を持つように荒々しくうねる海。それに対してじつとその場で咲き、実を生らせ、枯れてゆくハマナス。一連には湖に憩う鴨や陸近くを飛ぶ雁の姿も描かれる。厳しい自然の中の営みをじつと見つめる作者の姿がある。

(大松 達知)